

令和5年9月 市長定例記者会見

2023年9月1日(金)

午後1時30分 開始

【秘書広報課主幹】 ただいまから定例記者会見を開始させていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 本日、9月議会の招集を告示させていただきました。来週金曜日から開会となります。

9月議会には、9月の補正予算、それから一般議案を上程させていただきます。6月の議会にも申し上げたんですが、丁寧な答弁や対応を心がけて、建設的な議論ができたらと思っています。

それから、皆さんご承知のとおり、北陸新幹線は金沢敦賀間の開業日が令和6年の3月16日に決まったということで、数えてみますと残り197日です。これまでも開業に向けて一生懸命取り組んできましたけれども、引き続き開業に向けて機運醸成に努めて、魅力あるまちづくりに取り組み、新幹線の開業効果を最大限に生かしていきたいと考えています。

それから、明日から3日間、9月2日から4日まで、敦賀まつりが開催されます。4年ぶりの開催ということで、市民の皆さんも心待ちにされていたと思います。安全、それから熱中症には十分気をつけながら、ぜひ楽しんでいただきたいと思いますし、我々も盛り上がるように頑張っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【秘書広報課主幹】 それでは続きまして事業発表に移ります。

なお、進行は1項目ごとに発表及び質疑応答とさせていただきます。

それでは、まず1つ目の項目、令和5年度9月補正予算案の概要について、お願いいたします。

【市長】 9月補正予算の概要ということで、今回の補正予算につきましては、人口減少対策など喫緊の課題への対応を中心に、前回の補正予算以降に予算措置が必要となったものを計上しました。

まずは人口減少対策、それから子育て支援です。

婚姻数の増加を図りたいということで、結婚を望む方々のために、様々な出会いの機会を創出する事業を行います。また、子育て環境の充実に向けて、すみずみ子育てサポート事業と一時預かり事業において、それぞれ運営事業者を追加します。

次に、新幹線の開業対策です。

敦賀駅の西口に臨時観光案内所を設置して、観光客の受入れ体制を強化します。また、タクシー事業者に対しまして、新幹線開業までに環境負荷の少ない次世代自動車への買い換えを促進するため補助を行います。さらに、来年春に供用開始を予定しています敦賀駅前広場及び東口駐車場の管理経費を計上しました。

次に、物価高騰対策です。

私立保育園等の福祉施設における電気料等の高騰分を支援します。また、産業面では、中小企業者が行う省エネ対策に係る設備投資に対して補助を行います。

ほかに主なものとして5つ紹介させていただきます。

1つ目に、道の駅整備の可能性を検討するために調査を開始します。それから2つ目に、セクシュアルマイノリティのカップルの暮らしやすい環境づくりに向けて、パートナーシップ宣誓制度を導入し、啓発活動等を行います。3つ目に、老朽化が進む西公民館の移転新築に向けて、候補地となる市立敦賀病院駐車場等の測量を行います。4つ目に、市役所内の働き方改革を推進するため、庁内事務のデジタル化に必要な機器の導入等を実施します。5つ目に、一般廃棄物最終処分場整備については、物価高騰に伴うインフレスライド条項の適用等による工事費の増額を行うとともに、工期を延長します。

以上が今回の補正予算の概要でございます。

【秘書広報課主幹】 それでは、ただいま発表しました項目について質問をお受けいたします。最初に幹事社からお願いいたします。

【記者】 最初に、新幹線の開業対策です。臨時観光案内所の設置についてお聞きしたいんですけども、駅を出ますとオルパークで、今も案内所という形で聞ける体制になっているかなと思います。それに追加してこれを新たに設置というのは、イメージ的には、さらに道具を強化しようというイメージなのかを教えてください。

【市長】 新幹線で例えば西口に降りてきて、オルパークへ寄られる人もいるでしょうけれども、そのまま出口へ行く人もいらっしゃると思います。出て、そこに観光案内所を置くという形で、これから人の動線というのは、実際始まってみないと分からないところはあるんですが、そういう人の流れに対応するような形で観光案内ができるようにしようと考えています。

【記者】 具体的に、いつ頃から始められたらいいなとかいうのはありますか。

【観光部長】 想定の日にかというものは確定しておりませんが、当然、開業日までには準備をさせていただいて、少し職員のほうも雇用しますので、その雇用の準備とかもござい

ますので、開業日までにはという形でご理解いただきたいと思います。

【秘書広報課主幹】 では、次に各社の方よりお願いいたします。

【記者】 県内各市町でやられていることなんですけれども、セクシュアルマイノリティのパートナーシップ宣誓制度なんですけれども、敦賀で導入するということについて、市長のコメントをお願いいたします。

【市長】 6月の議会するときにも質問があつて、思いというのでもそこでも述べたことがあるんですけれども、市民生活を送る上で、性的指向によって、ある意味それだけで生活に不便が生じるようなことがあるというのは、あつてはならないことだろうなと思つています。特に行政サービスにおいて、そういうことがあるというのは、よくないことだということで、今回、パートナーシップ宣誓制度で宣誓していただくことによって、不便などがないようにしていかななくてはいけないという考えで、今回制度を導入します。それから、いざ制度を導入しても、ご本人さんたちだけじゃなくて、周り、市民の理解というのが深まっていけないといけないんだという思いもあつて、今回、予算の中にはその啓発活動も含めて計上しております、そういう形でやっていきたいと思つています。

【記者】 詳細は、後でまたあると。

【市長】 そうですね。具体的な中身は。

【秘書広報課主幹】 それでは続きまして、2つ目の項目、敦賀市職員「働き方・仕事の進め方改革推進プログラム」の策定について、お願いいたします。

【市長】 敦賀市職員の働き方・仕事の進め方改革推進プログラムを策定します。

職員一人一人がワーク・ライフ・バランスを実現し、効率的で質の高い働き方を実現していく。このために本日付で、敦賀市職員「働き方・仕事の進め方改革推進プログラム」を策定しました。

皆さん、お手元にあるものです。

このプログラムは、業務の改革・改善、それから長時間勤務の是正、それから働きやすい職場環境、この3つの柱で構成しております、具体的な取組としては、IT機器の拡大、それから電子決裁の導入、議会答弁システムやフリーアドレスの実施など、デジタルを活用した取組のほか、時差出勤制度の拡大やメンター制度の導入、ノー残業デーの拡大など、職員の多様な働き方や健康管理に配慮した取組をやっていくということで、そのパンフレットに掲載しております。

このプログラムを足がかりに、自由闊達、縦横コンパクト、思いやりのある職場。これ

は、これから敦賀市役所の職場をよくしていきたいということで、いろんな場面でこの3つを申し上げているんですけれども、これを実現して、チーム市役所としての力を高めることによって、職場環境がよくなる、職員のモチベーションが上がる、市役所の力が高まるということ、イコール、市民サービスの向上につながっていくと信じておりますので、そういう意味で頑張っていきたいと思っています。

【秘書広報課長補佐】 フリーの質問タイムに移りたいと思います。こちら初めに幹事社の方からお願いいたします。

【記者】 私から3問、お伺いしようと思います。

まず、ottaからお聞きしようと思います。

今日9月1日で、ちょうどオープンから1年たちました。個人的には、ottaができてから、あの周り、人の流れは変わったのかなと思うんですけれども、市長ご自身、ottaができてから、駅前といいますか、ちえなみきを中心としてあの部分、どういうふうになったかと評価をするか。また今後、開業に向けて、あの場所をどういうふうになってほしい、どうしていこうと思っているか、教えてください。

【市長】 いろいろ課題もあるんでしょうけれども、今のところ順調に来ているんだろうと評価しています。実際、後で細かい数字の話もあるのかもしれませんが、私のほうから紹介させていただきますと、昨年の9月以降、10か月で約59万6000人に来場していただいているということで、12か月だったら70万人ぐらいに達するんだろうなということですね。1年で70万人ぐらい来るような施設になっていると。

おっしゃるとおり、駅前のにぎわい創出。今までだったら歩いて通り過ぎていたような人たちがそこにとどまることによって、やっぱりにぎわい感があるというのは実際出てきていると思います。特にその中でも、ちえなみきの入場者は非常に多いですし、今月中には、ちえなみきだけで30万人に達するのではないかという話になっております。当初の計画は年間10万人ということなので、約3倍ということです。ほかのところに行って市長さんとお会いしたりすることがあるんですけれども、ちえなみきのことを言われたりしますので、本当に県外の方にも来ていただけるような場所になっています。そういう意味では、本当ににぎわいの中核になっていると思います。

これからどうしていこうということなんですけれども、あそこのエリアで言いますと、今ちえなみき、あそこら辺、結構人が集まっているということで、それを飲食などのほうに広げていきたいということがまず一つ。

もう一つは、このにぎわいを駅前商店街のほうに人の流れ、動線を持っていきたいと思っています。駅前商店街もこれから、商店街自体の道のリニューアル、そういうこともありますので、それに合わせて人の流れをそちらに持っていけるような取組というのはこれから課題になってくると思っています。

【記者】 続いて、新幹線の開業日の発表関連の話で質問します。

こちらのほうで、かがやき、敦賀は合わせて9往復やってきて、そのうち一部は県内の全駅に止まるなどの発表がありましたけれども、このような、本数や停車駅などJRからの発表について、この本数や停車駅の数をごどのように受け止めているか教えてください。

【市長】 まず開業日が決まったということで、これでカウントダウンができるようになりますので、いろんな開業に向けてのイベントとかも打ちやすいというか、PRしやすくなってきました。

これまで開業に向けて、JRさんはもちろんなんですけれども、敦賀市内でもいろんな形でご尽力、それからご協力いただいた方がいっぱいいらっしゃいます。本当に市内外、関係者の皆さんには、この場を借りて感謝を申し上げたいと思います。

それから、例えば運行本数の話なんですけれども、おおむね現行どおりというか、ある意味こちらがこれぐらい来てくれたらありがたいなという本数は来ていただけるとのことだと思いますので、本市、敦賀市がこれまでしてきた要望がしっかり反映されたと認識しています。

【記者】 ありがとうございます。

最後の質問なんですけど、中間貯蔵の件についてお聞きしたいと思います。

先日、山口県の上関町のほうで、町長のほうが施設の受入れのための調査を開始することを表明しました。このことについて全原協の会長として、改めてどのように受け止めているかを教えてください。

【市長】 基本的には、例えば中間貯蔵でどういうご判断をされるかというのは、その自治体の判断が尊重されるべきだと考えていますので、敦賀市、一立地としても、それから全原協の会長としても、その動向は見守っていきたいと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 次に、各社よりお願いいたします。

【記者】 全体的な話で、まだちょっと就任から半年には早いんですが、次、市議会2場所目ということになります。今回の働き方改革推進プログラムを見せていただいても、就

任の日だったと思いますけれども、自由闊達、縦横コンパクト、思いやりのある職場という話もされたと思いますし、例えば道の駅の補正予算であったり、結婚の支援のやつでも市民アンケートのほうは、両方ともですけれども、道の駅の調査とか市民アンケートによる調査による施策の立案に向けたという話については、選挙戦とか就任以来も言われていたような、いわば米澤カラー的なものだと思うんですけれども、この5か月ぐらいの総括というか、その辺を聞かせてください。

【市長】 総括ということで言いますと、結構難しいですね。あまりそういうことを考えたことがないので難しいんですけれども、まだまだ思ったようにはやれてないところもいっぱいあります。正直いっぱいあります。

少しでもその中で物事を進めていくことが大事だなと思っていまして、職員の人もいろんな話をしながら、私がもともとと言っていたことに加えて、いろんなアイデアも入れながらやれているなと思っています。

今、言っていただいた施策というのも、私がもともと持っていたアイデアだったりとかそういうところを超えて、各部署でいろんな肉づけや膨らませ方をしてもらっていますし、これを早く総合計画できれいに皆さんにお示しできるようにしたいです。また、市役所の職員の共通認識にもしたいと思っています。

その中で、今言っていただいたようないろんな施策の意味や位置づけを市民に分かってもらいながらどんどん仕事を進めてもらう、それから膨らませてもらうということをこれからやれていけたらいいなと思っています。

まだまだやりたいことや、あるいは改善したいことがいっぱいあります。あつという間に4か月たちましたけれども、まだ慣れてもないし、これでいいとも思っていません。これから一生懸命頑張ろうと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 新幹線に関連して、先ほど西口のottaの話や観光案内所の話が出てきました。開業までにこれから整備が進む場所として、裏側の東口の工事の計画も決まり、随時進行中だと思うんですが、新幹線が開業して新設される東口ということで、市長として、東口をどのような場所にしていきたいか。また、東口が開業することによって、どういう効果を期待するかというところをお聞かせいただければと思います。

【市長】 東口については、今、広場の駐車場を整備していますけれども、これは順調に今のところ工事が進んでいまして、逆にいうと開業には絶対にきれいに間に合わせなけれ

ばいけないという市の事業なので、これは一生懸命やります。

しかし、あのエリアをどうするかということについては、正直まだ決まっておらず、そこまで議論がされていません。

今現在、広場や駐車場ができており、役割としては、例えば嶺南地域や滋賀県北部の広域観光の玄関口として役割を果たしていく。しばらくはそういうことになると思います。あのエリア全体をどうしていくかについては、今、庁内でも議論を始めたばかりというところが現状です。

あそこのエリアをどうするのか。先ほど、駅の裏側という言い方があったんですけども、新幹線駅ができると、あそこは裏側でなくて、新幹線駅にとっては表側なんですよ。そういう意味で非常に有望な場所でもありますから、どのようにこれからまちづくりをやっていくのかということについては、課題であるし、もっと言うと楽しみな課題として取り組んでいきたいなと思っています。

【記者】 NHKのセキヅカです。

まず1点目なんですけれども、昨日、日本原電が敦賀発電所2号機について、修正した申請を東京のほうで送りました。これについての内容や、今回送ったことについての所感について、可能な範囲でコメントをいただければと思います。

【市長】 これまでの経緯も含めて、十分な検討をして出されたんだと思うんです。今回の補正によって審査が進むことを望んでいます。

【記者】 あともう1点、新幹線関連で、この前ダイヤが発表されたときに、敦賀駅での特急から新幹線への乗換えが大体8分ぐらいででき、スムーズな乗換えができるというお話がありました。スムーズな乗換えとは表裏の問題だと思うんですけれども、どのようにして乗換えで来てくれた人に敦賀の魅力を発信したり、逆に、乗換えで来た人でも敦賀に立ち寄ってもらったり、そういった魅力の創造の部分で、考えていらっしゃることや、こうしていきたいというようなことがありましたら、ぜひお願いします。

【市長】 敦賀駅、確かに乗換え駅ではあるんですけども、終点になるんですよ。普通の乗換え駅とはちょっと違うと思っていて、要は敦賀開業という言い方をするわけなんですよね。なので、敦賀に向けて来るお客さんというのは一定数いらっしゃるだろうなと思っています。

例えば、観光地の磨き上げみたいな言い方でいうと、気比神宮の周りの整備などは、新幹線が契機ということはもちろんですが、関西、中央圏から車で来た人にも楽しんでいた

だくということにもつながると思っています。そういう意味でいうと、一定数、今まで以上に観光客は新幹線によって来るんだろうと思います。

それに対して、敦賀はいいところだなと思ってもらえるように、例えば駅前、神楽、気比神宮の周辺、金ヶ崎のような今までも取り組んできたところの観光地の環境整備というのをやっていくということになるかと思っています。

懸念する声はあるんですよね。乗換え駅になるんじゃないかという話はあるんですけども、私は単純な敦賀駅は乗換え駅にはならないのではないかとと思っています。

【記者】 本日、読売新聞の敦賀支部に着任しましたタカヤマと申します。これからよろしくお願いたします。

先ほどの乗換えのことにも関連するんですけども、敦賀が終点になって乗り換えるということは、おっしゃられるとおり、敦賀に立ち寄ってもらう機会、チャンスになると思います。駅から観光地だったりとか敦賀市内のスポットに行くための二次交通という点で、タクシーの買換え補助などがあると思いますが、ほかに何か全体的にこういうふうにしたいなというふうに考えられていることはございますでしょうか。

【市長】 二次交は結構、課題だと思っていまして、タクシーについては台数確保をします。

それから、コミュニティバスとか周遊バスとかあるんですけども、これが今、例えばルート、それからダイヤの改正ということでいうと、地域公共交通計画をつくってからということで、少し開業から間が空くんですよね。なので、なかなか今これという妙案のようなものがないのが実際のところかなと思っています。

とはいえ、これからの取組として、先ほどの公共バスの話ですとか、それから例えばレンタカーの話ですとかいうことは、開業前後に間に合うか間に合わないかということ、なかなかしんどいかなと思っていますけれども、結構、庁内では課題として取り組まなければいけないという話をしています。

あと、それは例えば広域二次交通の話もあると思っています。これについては、特に嶺南の首長さんと話をしているときに、嶺南広域でそういう二次交通というのをどうやって考えていったらいいだろうと。もちろん小浜線はあるよねということなんですけど、それだけでなくというところも考えていかなければいけないということを今、話しています。ただ、課題感は共有していますが、具体的にどうしようというところまではやれてないので、これからそういう話を進めていかなければいけないんだろうなと思っています。

【記者】 先ほどのNHKさんの関連で、何点か教えてください。

敦賀2号機についてなんですけれども、審査申請から7年9か月がたっているという中で、審査が長期化していることについて、どのような課題があるとお考えになっているかというのをまず教えていただけないでしょうか。

【市長】 まず、敦賀に限らず、一つ一つのプラントにかかる審査の時間というのが長いなという印象はあります。これについては、いろんな場面で、規制側の人のリソースも含めてもっと強化する必要があるのではないかと考えていますし、そういうことも申し上げてきています。

それから今度、敦賀という個別の案件でいうと、それはやはりこれまで日本原電が出してきた資料の問題があったというところはやはり大きくて、それについては本当にこれまで事業者に対しても遺憾だという言い方をしてきましたけれども、時間がかかった一つの理由にはそういうことがあるんだろうと思っています。

昨日に再提出ということになったわけですが、今言った2点の観点からいうと、今回、例えば記載の誤りなどは、今回の補正ではクリアされているものであって、本質的な安全性の議論をしてほしいということです。また、安全性の本質的な議論はリソースの問題で、しっかり審査はしなければいけないのですが、例えばリソースの問題でやはり時間がかかるということは本当はあまり好ましくないかと、今のエネルギー事情などを考えても思います。

ただ、人間のリソースの問題や原因だとすると、それは来年解消されるか、再来年解消されるかという、なかなか難しいので、原子力を発電所として活用していくんだという方針を国が示したのであれば、やはり規制面においても人のリソースだったりとか、そういうことについては国が責任を持って充実させていく方向にしていけないんじゃないかなと思うんです。

【記者】 一方で、今日も決算書が出ましたけれども、敦賀はほかの立地自治体に比べると、原発があることの依存度が若干ほかの自治体に比べて低いのかなと感じます。その上で、敦賀2号機のある位置づけというか、動く原発があることというのは敦賀にとってどういう意味があるとお考えですか。

【市長】 行政にとって、例えば決算の中で原子力の占めるウエートが昔に比べればだんだん減ってきているのかもしれないんですが、例えば実際、敦賀市民の中で、原子力関係で働いていらっしゃる方というのはやはり結構今でもいらっしゃいますし、そういった人

たちの一人一人の生活、一家族一家族の生活ということを考えると、やはり敦賀市というのは原子力とは切っても切り離せない。言い方とすれば地場産業みたいな言われ方をされる方もいらっしゃいますけれども、そういう産業だと私も受け止めています。

そう考えると、先ほどの2号の話もそうですし、それから今後の3・4号機、あるいは新しい試験研究炉ということも含めて、これからも敦賀市は取り組んでいくことになると思います。廃炉も含めて、敦賀市が原子力も含めたエネルギーを生み出していく先進地である。あるいは、これからは研究していく先進地であるということに変わりはないんだろうなと思っています。

【記者】 その上でなんですけれども、経済大臣も今回の審査はラストチャンスだという発言をされていますが、最後、日本原電に求めることというのを一言いただけないでしょうか。

【市長】 もう補正は出したので、今からというのはなかなか難しいのかもしれませんが、今後、先ほど申し上げましたように審査ということに関しては、しばらく、ある程度の期間、規制委員会とのコミュニケーションをしながら、議論しながら安全性を確認していくんだと思います。そのコミュニケーションはしっかりやっていっていただきたいと思います。本当に安全性の本質的な議論をしっかりとやっていただくことを事業者には求めたいと思います。

【秘書広報課長補佐】 それでは、本日、一般事業発表はございませんので、以上をもちまして市長記者会見を終了させていただきます。

ありがとうございました。

午後1時58分終了